拠点運営での取組報告

〈事業報告〉

なごみん　2023. 6. 6～6. 25

市民活動サポート研修「おかざき市民活動情報ひろば」活用研修

●事業成果

協働先：市民活動センター　　総来場者数：25名

昨年度末に情報ひろばがリニューアルされました。ログイン方法や更新方法が大幅に変更となったため、更新を諦めてしまう団体が複数見られました。本事業では、そういった初歩の段階でつまずく団体を主な対象とし、一緒にパソコンを操作しながらその場で更新するサポートをしたことで、活動をしていないように見える状態から活動をしていることが分かる状態にすることができました。また、実際に触ってみたことで、「家に帰ったら復習してみる」「ほかのメンバーにも更新方法を教える」などの感想を聞くことができ、更新に対する意欲が向上することで、情報ひろばが団体の情報発信のツールとして有効に活用していただける環境づくりに寄与しました。

〈市民活動相談事例〉 6月、7月

よりなん

夏休み中に中学生の子供にボランティアをさせたい。

→まちびとバンクとよりなんで募集中のボランティアを紹介しました。

やはぎかん

発表の場を増やしていきたいが、どうしたらよいか。

→まちびとステージ、やはぎかんサロンを紹介しました。

〈その他の取組〉 6月、7月 市民活動推進チーム

運営懇談会の実施

地域交流センターが地域の方々に愛されるセンターになっていくために、設置目的や運営について知っていただいた上で、利用者・行政・管理者との対話の場を提供しました。

まち育て推進チーム　Pick UP！

「第3回　矢作公園の未来を考えよう！」ワークショップ2023

8月20日（日）に矢作東学区市民ホームにて、「第3回　矢作公園の未来を考えよう！」ワークショップの企画・運営をしました。昨年度のワークショップで出された提案をもとに屋根を設置することになった矢作公園。新しくできる屋根つき広場の使い方を考えました。時間別、年代別にゾーンニングすることで、より具体的に使い方をイメージしながら、多くの提案が出されました。

お問合せ		よりなん	59－3600	むらさきかん	66－3066	市民活動センター	23－3114
なごみん	66－8251	やはぎかん	33－3665	悠紀の里	57－5050	まち育て推進チーム	23－2888

まちのミカタ
Litaracy
2023.9　vol.123

発行・編集
特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた
〒444-0031　愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL（0564）23-2888／FAX（0564）23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送　等　※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力
岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり／

まちのミカタ
Litaracy　ーりたらしいー
123
2023年9月

特集　広がる！公園愛護運営会の輪

公園愛護運営会（愛称：公園育み隊）は、身近な公園を自分たちの手で管理・活用するための岡崎独自のパークマネジメント（公園経営）の仕組みです（本誌88号・112号参照）。りたは2016年より岡崎市公園緑地課と共に公園愛護運営会設立の支援に着手し、現在公園愛護運営会は10団体（15公園）まで増えました。それぞれの公園や地域の特性に応じて様々な取組が展開されていますが、担い手の確保やイベントの内容などを手探りで模索している団体も多く、他団体のやり方を知りたいという声が寄せられるようになってきました。

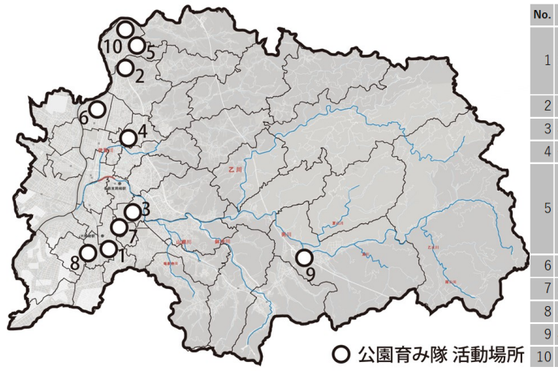
そこで7月26日（水）に、既存の公園愛護運営会が、それぞれが感じている運営上の課題や疑問について、他の団体と意見交換をしながら学ぶ「情報交換会」を開催しました。本会には9団体20名が参加し、3団体から活動報告をしていただいた後、事前に行った各団体の活動状況や課題等に関するアンケート結果をもとに、「どのようにメンバー集めやモチベーション維持をしているか」等について活発に意見交換がなされました。より豊かな公園活用に向けて、大きな熱気と可能性を感じる場となりました。

特集 広がる！公園愛護運営会の輪

公園愛護運営会ができること

主に園内の清掃や除草を担う「公園愛護会」は市内に100余りありますが、公園愛護運営会になると、「公園施設の日常点検」や「遊具破損等の不具合の市への連絡及び応急的な対応」等、地域で担う範囲が増える一方で、「花壇・プランター・農園の設置及び管理」や「非営利の地域イベント」等、通常認められていないことも可能になります。

活動実態調査によると、お祭りやマルシェなど「地域交流を促すイベント」や、レクリエーションを組み合わせた清掃活動やプランター菜園・遊具のペンキ塗りなどの「公園管理に関わる機会の創出」、みんなでピクニックやランチなどの「公園活用のきっかけを生むイベント」が積極的に行われており、その結果「地域住民が喜んだり、感謝してくれる」「地域住民の関係性の広がりと深まりが生まれた」「公園への愛着が育まれ、公園が地域住民の居場所になった」という成果が生まれていることがわかりました。



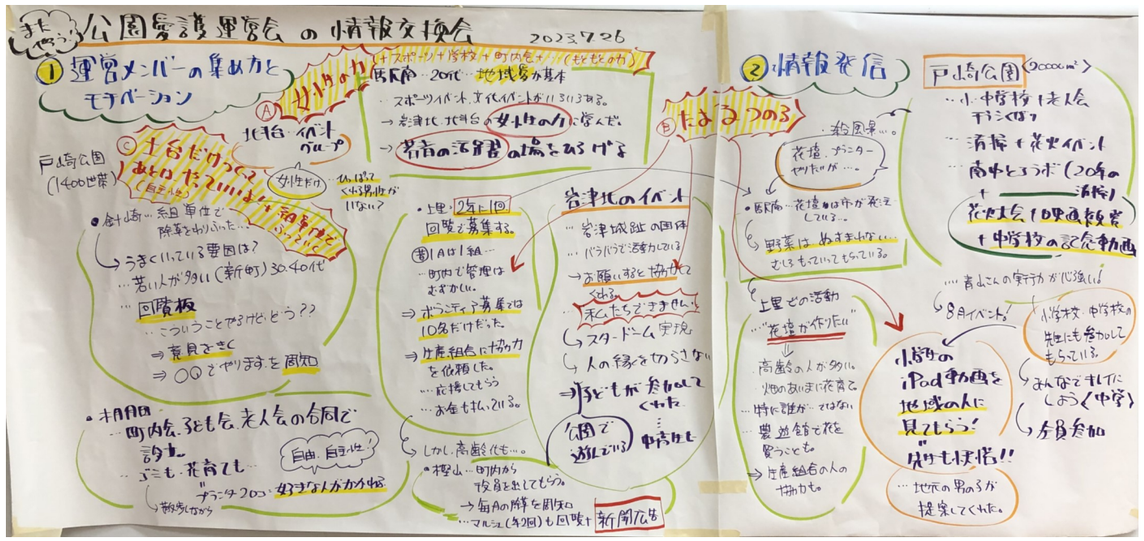
No.	公園愛護運営会名	公園名
1	針崎東町公園愛護運営会	春咲れんが公園
		春咲さくら公園
		春咲の丘公園
2	岩津北公園愛護運営会	岩津北公園
3	棚田公園愛護運営会	棚田公園
4	伊賀公園愛護運営会	伊賀公園
5	北斗台4公園愛護運営会	北斗台1号公園
		北斗台2号公園
		北斗台3号公園
		北斗台4号公園
6	上里公園友の会	上里公園
7	戸崎公園愛護運営会	戸崎公園
8	駅南中央公園愛護運営会	駅南中央公園
9	樫山公園愛護運営会	樫山公園
10	さくら台公園愛護運営会	さくら公園

担い手を掘りおこす5つのポイント

情報交換会で共有された「担い手を掘りおこすポイント」を5つに整理しました。

①女性の力：女性の持つネットワークや実行力をいかんなく発揮してもらうことが重要。
②普段の活動と地域愛：スポーツイベント等、日ごろの地域活動で培われた人間関係が活かされている。
③積極的に「頼る」「募る」：お願いすると一肌脱いでくれる人が地域内外に潜在している。
④自主性の尊重：特に義務化せずに好きな人、気づいた人、やりたい人がやれるよう工夫する。
⑤輪番制で役割分担：（④とは逆に）組単位で割振ることで関わってくれる人が格段に増えたというケースも。

参加者アンケートでは、全員が定期的な情報交換会の開催を「希望する」と回答されたことから、りたは今後も公園愛護運営会相互の学びあいの場を設けるとともに、新たな愛護運営会設立に向けた啓発も行ってまいります。



まちの今を切り取る！
まちづくりトピックス
—town planning topics—

やはぎかん 防災交流会～実践を視野に入れた検討・交流会～

助け合い・支え合いを考えよう。

7月29日（土）、西部地域交流センターやはぎかんで「防災交流会～実践を視野に入れた検討・交流会～」を開催しました。

前半では、協働先である岡崎城西高等学校（以下城西高校）で自主活動部の顧問をされている佐治嘉隆先生をお招きし、お話をしていただきました。佐治先生の阪神淡路大震災、東日本大震災を中心とした長年の経験談や防災意識・地域連携を課題とした城西高校が取り組む「防災アップデート」など、熱のこもったお話に参加者の方も熱心に耳を傾けられていました。

後半は、佐治先生のお話をヒントに団体の経験を活かしたボランティア活動など、「共助」を深堀りし、当事者意識を向上させる検討&意見交換会を実施しました。

「事前に地域で顔の見える関係を作ることが大事だと思う」
「社員の帰宅方法や帰宅時間の見極めが必要だと感じた」
「災害時に別の地域の委員につなげることができます！」
など様々な立場から経験や能力を活かした意見が出ました。

また、最後は各グループに参加していた城西高校の生徒が意見をまとめ、発表をしました。普段あまり話す機会のない方々とも交流することで、新しい発見をしている生徒が多くみられました。

他にも、防災交流会に併せ、防災にまつわるキャラリー展示を実施。特に、500ml（一部600ml）のドリンクボトルに防災トイレや非常食など100均で売られているものをいれて作った8種類の防災ボトルは、防災バックよりもさらに手軽に準備ができるため「これなら準備できるかも」という前向きな声も多く聞かれました。防災交流会、展示とともに普段の生活や活動でできることを防災の視点で見直し、アップデートする機会を提供できた事業となりました。

りた's Eye

今回、城西高校生の役目は交流会（グループワーク）への参加と、まとめの発表。参加者の様々な意見を客観的に捉えてまとめる作業、やってみるとなかなか難しい。年代も活動も立場も違う参加者ばかりで、多様な意見をまとめなければ…。
発表はそれぞれ素晴らしく、社会に出ても役立つから頑張って！と参加者からもエールがありました。
コツは「実践あるのみ」！りたはこれからも場の提供を増やしていきたいです。

りた職員の思いを伝える！
コラム ~lita column~

「 利 他 」 考

数年にわたるコロナ禍で、「利他」が社会のキーワードとして注目されました。自分が無症状のまま感染している可能性を考え、マスクの着用、行動の自粛・・・。自分のためである以上に、大切な人に感染させないように。

自団体名でもある「りた（利他）」についてあらためて考えようと、手に取った中島岳志・著「思いがけず利他」。そこには様々な示唆がありました。利他とは「他を利する」、すなわち他者のためになることをしようということ。一見よいことに見える利他ですが、利他的であろうとすれば、そこには偽善の心やお返しをせねばという負債感が伴うなど、利他には利己的な欲望が含まれます。なかなか難しい「利他」。

そんな中で印象に残ったのは、利他は自ら発動して利他であるのではなく、受け手側が他者の行為や言葉のありがたさに気づいた時に初めて発動するということ。この先、りたという名に恥じない団体であり続けられるかどうか、りたで働く自省と自戒です。やっぱり難しいですね、でも大切な「利他」。

深田賢之
平成24年（2012）、りたに入社。
地域交流センターの統括として、市内の地域交流センターと市民活動センターで勤務しています。